

©北近畿経済新聞社 2016年

2016年(平成28年)

1月21日

木曜日



最寄りの店業係にお問下さい。説明書をごます。気宣言の信用金庫 tuto-shinkin.co.jp/

北近畿経済新聞社 〒623-0046 京都府綾部市大島町沓田4-3 電話0773(42)6800(代表) FAX0773(42)8537

www.r-keizai.com/ 地域経済の明日を見つめる e-mail office@r-keizai.com

# 福知山駅正面通の再興を

## 商店街有志らがテナント誘致の新会社設立

### 空き店舗を活用

#### 「活性化へ最後のチャンス」



商店街の再興を願う新会社を立ち上げた関係者ら(福知山市内)

シャッター通りと化しつつある商店街のにぎわいを復活させようと、福知山駅正面通商店街の有志が空き店舗を活用したテナント誘致を進める新会社「福知山フロント」を立ち上げた。4月以降に出店希望者向けの説明会を開く計画で準備を進めており、同商店街振興組合の人見茂理事長(84)は「地方創生の流れの中で、商店街を活性化させる最後のチャンス」と気を引き締めている。

同商店街はJR福知山駅北側の約300メートルにあり、かつては「アキヤマ」「福知山ファミリー」という大型商業施設にけん引され、ピーク時には90軒もの商店が並んでいた。しかし2008年にファミリーが運営会社の自己破産により閉鎖されると、同商店街の客足も徐々に遠のき、現在は会員数が57軒にまで減少。シャッターが閉まったままの空き店舗が増加している。そんな中、市が内閣府認定を目指す16年度から5年間の市中心市



空店舗へのテナント誘致を進める福知山駅正面通商店街

れを好機ととらえた商店街の有志が昨年12月に新会社を設立。空き店舗の活用事業を進めることになった。社名は「福知山フロント」。秋山氏が社長のアキヤマ会長の福知山フロントは同振興組合のほか商店主ら8人が共同出資し、社長には出資者の一人でもある(株)アキヤマ(福知山市駅前町)会長の秋山保彦さん(70)が就任。本社はアキヤマ内に置く。事業は空き店舗へのテナント誘致を中心とし、観光戦略プランの策定やにぎわい創出のためのソフト事業などを計画。同商店街には活用できる空き店舗が20軒ほどあるといい、既存商店と業種が競合しないようなテナントを誘致する。空き店舗対策事業は府の「創生商店街」にも選定されており、ノウハウを持つ民間企業団体の支援も受けることになる見込み。秋山さんは「昔のようににぎわい創出は難しいかもしれないが、不動産価値の低下を食い止めるように、少しでもにぎわいを取り戻したい」と話している。

### 綾部に新産業創出拠点

#### 府やグンゼなどが駅北で計画

##### 年内に構想策定

JR綾部駅北側のグンゼ所有地を活用し、備計画が進んでいる。府北部の中小企業支援などを担う新産業創出拠点「北部リサーチ」の4者が構想を練って出拠点「北部リサーチパーク」(仮称)の整備を進めている。京都市と綾部市、グンゼ、京都工業繊維大学などが出資する。京都市は受け付け開始から数日目で目標額に達し、消費者の関心の高さが活用。事業費376万ユーロがえられた。

### 但馬牛や八鹿豚など

#### 今春の発売めざす

同社は、この資金を活用して任話の製造機を導入し、但馬牛や八鹿豚、但馬産の鹿肉やアマゴなど川魚の薫製を製造していく計画で、今春の販売開始を予定。井上社長は「常温保存できるの

おり、産学官連携による高度な研究開発拠点にしたいと考えた。駅北に試験研究機関「北部産業技術支援センター」の機能強化も想定する(綾部市青野町)



北部リサーチパーク構想では「北部産業技術支援センター」の機能強化も想定する(綾部市青野町)

点整備を検討している所有地を有効活用する見込みという。技術支援センター機能強化とともに、グンゼは同市青野町の西社宅跡地に12棟の研究開発技術を生かした賃貸住宅や社宅を建設、同町内にある観光交流拠点「あやべグンゼスクエア」のリニューアルを行うなど、自社所有地の再開発を進めており、リサーチパーク整備でもグンゼが

### せせりぎ

2003年8月、中東和平プロジェクトで我が国を訪れたイスラエルとパレスチナの子どもたちそれぞれ7名と、付き添いの引率者2名の計16名がイスラエルのテルアビブ空港に戻ってきた。一先先に入国審査を終えたイスラエル組に対し、パレスチナ組は厳しい持ち物検査を受けていた。イスラエル組は辛抱強く3時間近く待ち、全員そろってから握手をして別れた。「平和の種」こよま峰子著。▼第2次世界大戦後激化したイスラエルとアラブの対立は現在もなお一触即発の状況が続いている。そんな中、世界連邦宣言第1号である綾部市が提唱し、世界連邦宣言自治体全国協議会が協力して、中東和平プロジェクトが実現した。第1回は綾部市で開催され、両国の紛争遺児たちが招かれた。一行は14歳から19歳までの少女たちと引率者で構成されていた。綾部に着いた一行は市民の歓迎式で迎えられ、ホームステイで市内の各家庭に宿泊した。夜は心づくしの浴衣に着替え、折から催されていた水無月祭りの花火を楽しんだ。綾部の滞在を終え京都へ、さらに東京では総理大臣とも面会し、7日間の日程のあと、帰国の途についた。経費は第1回から8回目の京丹後市まで、全国協議会からの補助金と「世界平和と難民救済のための自治体職員一人百円募金」によって賄われた。ホストファミリーを務めた斎藤信行さん・さおりさん夫妻(綾部市)の元には滞在した少年の父親から丁寧なお礼のメールが届いた。今年度は9回目として静岡市で開催される予定だ。(風)